

令和4年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
6	川崎市立藤崎小学校	上野 和美

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
<p>○すすんで学び、よく考え表現する子 ○心豊かでやさしく思いやりのある子 ○心身ともに健康でたくましい子</p>	<p>1. 安心して楽しく学べる学校 2. 自分も友達も大切にできる子 3. 地域と共に歩む学校 4. 働き方の改善</p>	<p>a. 大切な知識や技能を身につける b. 自分の考えを深く表現する c.安全な学校 d. お互いの良さを認め合う e.保護者との連携 f. 社会に開かれた学校</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1a 安心して楽しく学ぶ (大切な知識や技能を身につける)	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の理念に基づいた授業の実践 GIGA端末を利用した学びの推進 個別最適化な学びと協働的な学びの推進 	知識がつながり「わかったおもしろい」と児童が感じられる授業をが展開できるよう国語を軸として研究を進めた。GIGA端末の利用により児童の表現の幅が広がり、個別最適化な学びが進んでいる。協働的な学びに向けてもさらに研究を深めていく必要がある。一人一人の職員が教育に大きな変化が起きていることを意識することが大切である。	<ul style="list-style-type: none"> 学習の目当てを達成するためのGIGA端末の効果的な活用 令和の日本型教育の理解と推進 SDGsを軸とした、総合的な学習のカリキュラムの構築
1b 安心して楽しく学ぶ (自分の考えを深く表現する)	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた支援体制の確立 授業のユニバーサルデザイン化 言語の力をつけるための年間を通じた取組 	すべての児童が、主体的に学習に取り組めるよう教室環境の整備や授業のUD化を進めた。また年間を通して読書指導、読みの指導(MIM)など言語活動の充実を図ることで児童の表現する力は徐々に上がってきている。また個に応じた個別指導の態勢をとった。	<ul style="list-style-type: none"> 授業のUD化の推進と検証 帯タイムを利用した言語能力を高める学習の推進 個別支援の組織的な取り組み
1c 安心して楽しく学ぶ (安全な学校)	<ul style="list-style-type: none"> 感染症や熱中症等の基準の更新と共通理解 校舎設備、教具等の日常点検の強化 防災マニュアルの見直しと定期的な訓練の推進 	感染症に対する予防対策を徹底していくと同時に、教育委員会が発出されるガイドラインのもと様々な教育活動に対する具体的な基準を明確にした。安全のために学校環境の点検と修繕を日常的に行った。防災訓練を計画的に実行した。安全対策に万全は日常的に点検管理が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 感染症、熱中症に対する予防措置の強化 危険箇所等のチェック、防災体制の強化
2d 自分も友達も大切に (お互いの良さを認め合う)	<ul style="list-style-type: none"> いじめ基本方針に沿った教育活動 LGBTQに対応した学習プラン等 人権教育の推進 井生共育 効果測定 学校生活アンケートの推進 	アンケートや効果測定など、児童理解に努めることができた。いじめの未然対策等後手になった事案もあり、共通の認識で対応する必要性を感じた。LGBTQに対応した学習プラン(Fプラン)を構築し全学年で授業を行った。学習効果など継続して見ていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> いじめ基本方針の見直しと共通理解 子どもの権利条約の共通理解 Fプランの改善と児童の姿容の見取り SOSの出し方や共生*共育など、個を大切に指導の推進
2d 自分も友達も大切に (お互いの良さを認め合う)	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動の研究推進 縦割り活動の充実 学校のきまりの見直しと徹底 	特別活動の校内研究が結実し、子供たちが主体となる活動が年間を通して行うことができた。学級、学年の枠をこえたつながりがあることは、藤崎小の大きな強みである。今後も他者の思いを受け止める心を育成する手だてを講じていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 全校で児童が主体的に取り組める活動の推進 学校・学年目標の意識づけ目標達成への手だて 全職員で児童指導のあり方の共有と、統一した基準での指導
3e 地域とともに歩む (保護者との連携)	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育方針の提示 きめ細やかな情報の発信 教育相談体制の強化 	教育方針など、学校便り等で年間を通して発信した。COが中心となり、支援を要する児童について共通理解を図り都度対応することができた。	<ul style="list-style-type: none"> 対策を講じたうえで積極的な学校公開 WEBを使った迅速で効果的な情報発信 COを中心とした教育相談の強化
3f 地域とともに歩む (社会に開かれた学校)	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育会議、地域推進会議等への参画 地域教材や人材のカリキュラムへの取り込み PDCAサイクルの確立と発信 	学校便りやHP等を使った情報の発信が、教育活動を理解してもらい一助となった。また、地域とともに進める学習が再開し、多くの方々の協力も学習を進めることができた。年間2回の学校評価アンケートをもとにPDCAサイクルに基づいた改善ができた。	<ul style="list-style-type: none"> コロナ対策のもと地域人材の積極的な活用 PDCAに基づく教育活動の見直し 地域活動への積極的な参画
4 働き方の改善	<ul style="list-style-type: none"> 校務組織の見直し等による効率化 業務に対する意識の変革 	学校組織の見直しやオンライン会議による効率化を図ることができた。働き方に対する意識は変わってきてはいるが仕事量と勤務時間のバランスの悪さは否めない。教育公務員としての規範については折に触れ伝えている。各職員とも順守して勤務していた。	<ul style="list-style-type: none"> 仕事の偏りを生じさせない校務分掌の明確化 慣例化してる事項や行事の見直し 公務員としての心構えの徹底

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<p>○保護者アンケートより 今年度は授業参観やワークショップ等、児童の学習の様子を保護者に見ていただく機会が増え、教育活動に対して「わからない」という回答が減った。また、HPや便りなどでの情報公開や教育相談等の連携について高評価をいただくことができた。開かれた学校を目指す取組が結実し始めているいじめ対策については、マイナスの評価が8%と昨年より増えている。このことを真摯に受け止めていきたい。</p> <p>○学校教育推進会議より 校舎が明るくなり、児童は大変落ち着いて学習に臨んでいる。学習の成果が、図工の作品や掲示物に表れている。人権に関することを児童がしっかりと学んでいるのがよい。</p>	<p>学校目標や重点目標を、児童の実態や変化していく時代に即したものにすべく、検証を重ねた1年であった。学習指導要領に記載されている資質能力について国語科の研究を通し研究を重ねた。また、児童全員が学習に主体的に取り組めるよう授業のユニバーサルデザイン化に取り組んだ。GIGA端末の活用や対話的な学びなど、授業は確実に変化している。予測困難な時代を生きていく児童に必要な生きる力をこれからも育成していきたい。児童の学校生活が安心できるものとなるよう、アンケートなどを通して一人一人の声に耳を傾け、必要な場合は校内支援委員会で解決策等話し合ってきた。児童アンケートではクラスにいじめがあるとした児童が一定数いる事実を真摯に受け止め、今後も人権意識を高めいじめは絶対に許さないという姿勢を貫いていきたい。またLGBTQに関する学習プラン(Fプラン)もさらに進化させていきたい。来年度は感染症対策による制限も減っていくことが予想される。コロナ禍の3年間で得たものと失ったものもしっかりと検証し、新しい形の教育課程を構築していくことが大切であると考える。</p>